

## 平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年8月5日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 アイロムホールディングス  
 コード番号 2372 URL <http://www.irom-hd.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経財本部担当  
 四半期報告書提出予定日 平成21年8月13日  
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 三宅 鐵宏  
 (氏名) 小島 修一

TEL 03-5436-3148

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	3,480	△1.0	△56	—	△55	—	△89	—
21年3月期第1四半期	3,515	14.9	△8	—	3	—	△24	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	△95.57	—
21年3月期第1四半期	△26.21	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	15,820	3,368	20.9	3,544.13
21年3月期	16,459	3,451	20.6	3,632.85

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 3,314百万円 21年3月期 3,397百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期	7,100	△1.9	△170	—	△190	—	△220	—	△235.26
連結累計期間	14,900	2.9	210	292.2	160	164.2	△100	—	△106.94

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第1四半期 935,142株 21年3月期 935,142株

② 期末自己株式数 22年3月期第1四半期 一株 21年3月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第1四半期 935,142株 21年3月期第1四半期 935,142株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は、本資料発表日現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

## 【定性的情報・財務諸表等】

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国の経済は、生産活動が極めて低い水準に低迷していることから企業収益及び設備投資が減少を続け、雇用情勢が悪化しており経済活動全体も予断を許さない状況にあります。一方で、高齢化社会の着実な進展を背景にして、ヘルスケア市場は全体として堅調であります。

当事業の主要顧客である製薬企業は、高齢化の進展をにらんだ新薬の需要が大きく、重点領域へ資源を集中的に投下しており、医薬品の研究開発は全体として堅調に推進される見込みであります。SMO（治験施設支援機関）及びCRO（医薬品開発業務受託機関）業界は、堅調に市場拡大を続けるなか、異業種からの参入が本格化しており再編統合が進みつつあります。

こうした状況にあつて当社は、SMO事業を核とした統合ヘルスケア事業ネットワークの構築を企業目的とし、基幹事業であるSMO事業の事業拡大及び安定収益基盤の確立に加えて、そのノウハウを活用したオリジナルブランド商品の販売及びヘルスケアの分野全体を対象とした事業に取り組んでおります。併せて、各事業の収益力向上に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,480百万円（前年同期比1.0%減）とほぼ横ばい傾向となりました。利益面につきましては、のれんの償却額72百万円の影響により、営業損失は56百万円（前年同期は営業損失8百万円）、経常損失は55百万円（前年同期は経常利益3百万円）四半期純損失は89百万円（前年同期は四半期純損失24百万円）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

## ①SMO事業

当事業におきましては、第I相から第IV相までの総合的な臨床試験支援体制を確立したことで、受託案件は堅調に進捗しました。特に第I相、第II相及び第III相の各種試験も安定しております。また、全国規模での事業基盤の拡充に努めた結果、提携医療機関数は1,111（前連結会計年度末比33施設増）となりました。これにより、売上高は800百万円（前年同期比1.0%減）、営業利益は149百万円（前年同期比10.4%減）となりました。

## ②メディカルサポート事業

当事業におきましては、貸付金事業等の事業再編及び医療機器等販売事業の減収により、売上高は151百万円（前年同期比59.5%減）、営業損失は30百万円（前年同期は営業利益64百万円）となりました。

## ③人材コンサルティング事業

当事業におきましては、医療分野における専門的知識・経験・資格を持った人材の需要増が継続する中、ドラッグストア・調剤薬局に対する薬剤師・登録販売者の派遣を継続的に注力しております。新規クライアント層である一般企業の健康保険組合・健康管理室・治験関連案件の発掘に努めてまいりましたが、顧客企業の採用抑制の影響により、売上高は61百万円（前年同期比40.0%減）、営業損失は1百万円（前年同期は営業利益16百万円）となりました。

## ④医薬品等の販売事業

当事業におきましては、地域に密着した健康情報の発信をテーマとし生活者と医療機関との結びつきをコンセプトとした「ファルマルシェ薬局」の充実と強化を図り、安定した収益体質への改善に引き続き努めてまいりました。店舗再編が完了し、既存店の商品管理を充実したことで、売上高は1,025百万円（前年同期比3.4%増）となりました。前期に引き続き仕入コストの低減及び商品管理の徹底を継続し、のれんの償却額19百万円はありましたが、営業利益は38百万円（前年同期は営業損失8百万円）と大きく改善いたしました。

## ⑤医薬品等の製造販売事業

当事業におきましては、医療用医薬品の製造販売及び他の医薬品メーカーからの製造受託等の事業が堅調に推移しました。その結果、売上高は1,233百万円（前年同期比18.0%増）となり、利益面についても増収効果と原価管理の徹底により、のれんの償却額50百万円をこなし、営業利益は3百万円（前年同期は営業損失39百万円）と黒字を回復いたしました。

## ⑥その他の事業

当事業におきましては、CRO事業が堅調に推移しましたが、一部事業の再編に伴う費用が増加し、売上高は207百万円（前年同期比7.5%増）、営業損失は9百万円（前年同期は営業利益10百万円）となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末における総資産は15,820百万円（前連結会計年度末比3.9%減）となりました。これは、借入金の返済等により現金及び預金が429百万円減少したことによるものです。

負債は12,451百万円（前連結会計年度末比4.3%減）となりました。これは、借入金が235百万円減少したこと等によるものです。

純資産は3,368百万円（前連結会計年度末比2.4%減）となりました。これは、利益剰余金が89百万円減少したこと等によるものです。

## (キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期連結会計期間末のキャッシュ・フローについては、営業活動により127百万円減少し、投資活動により66百万円減少し、財務活動により235百万円減少した結果、現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末残高1,519百万円よりも429百万円減少し、1,090百万円（前年同期比30.7%減）となりました。

## ①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果使用した資金は、127百万円となりました。主な要因は、利息の支払額38百万円、法人税等の支払額52百万円等によるものです。

## ②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、66百万円となりました。主な要因は貸付による支出40百万円等によるものです。

### ③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、235百万円となりました。主な要因は借入金の返済270百万円等によるものです。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、景気の後退が長期化する可能性があり、先行きの見通しは不透明ではありますが、現時点において、この状況が今後当社グループの業績に与える影響を予測することは困難であるため、平成21年5月13日発表の通期の業績予想に変更はありません。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

## 4. その他

### (1) 期中における重要な子会社の異動（連結の範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### 1. 棚卸資産の評価方法

当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

#### 2. 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算出方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

#### ① 会計基準等の改正に伴う変更

該当事項はありません。

#### ② ①以外の変更

当連結会計年度より、当社の連結子会社である、株式会社アイロムロハス及び株式会社ウイング湘南において有形固定資産の減価償却方法を従来の定率法から定額法へ変更いたしました。

この変更は、親子会社間の会計処理を統一するとともに、医薬品販売事業からの安定的な収益

と投資後の減価償却費をより厳格に対応させ、より適切に事業の業績を表すためであります。

この結果、従来の方法によった場合に比べて、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ2百万円減少しております。

なお、セグメントに与える影響は、当該箇所に記載しております。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期 連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,090	1,519
受取手形及び売掛金	2,671	2,900
商品及び製品	1,378	1,308
仕掛品	423	475
原材料及び貯蔵品	210	208
短期貸付金	2,545	1,398
1年内回収予定の長期貸付金	2,022	13
営業貸付金	—	2,344
その他	797	677
貸倒引当金	△3,747	△3,137
流動資産合計	7,392	7,709
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,969	3,013
土地	2,360	2,360
その他(純額)	630	637
有形固定資産合計	5,960	6,011
無形固定資産		
のれん	340	413
その他	139	157
無形固定資産合計	479	571
投資その他の資産		
長期営業貸付金	—	3,835
長期貸付金	2,482	27
その他	3,201	2,565
貸倒引当金	△3,697	△4,261
投資その他の資産合計	1,986	2,167
固定資産合計	8,427	8,749
資産合計	15,820	16,459

(単位：百万円)

	当第1四半期 連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,599	1,514
賞与引当金	123	34
未払法人税等	49	65
短期借入金	6,674	6,883
その他	1,864	2,310
流動負債合計	10,312	10,808
固定負債		
長期借入金	148	154
退職給付引当金	421	409
債務保証損失引当金	1,073	1,101
その他	495	531
固定負債合計	2,139	2,198
負債合計	12,451	13,007
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,286	6,286
資本剰余金	7,577	7,577
利益剰余金	△10,518	△10,429
株主資本合計	3,345	3,434
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△31	△37
評価・換算差額等合計	△31	△37
少数株主持分	54	54
純資産合計	3,368	3,451
負債純資産合計	15,820	16,459



(2) 四半期連結損益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	3,515	3,480
売上原価	2,419	2,507
売上総利益	1,096	972
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	281	267
その他	823	761
販売費及び一般管理費合計	1,104	1,029
営業損失(△)	△8	△56
営業外収益		
受取利息	13	10
受取配当金	1	0
休業補償金	—	13
その他	29	20
営業外収益合計	44	45
営業外費用		
支払利息	31	35
その他	1	8
営業外費用合計	32	44
経常利益又は経常損失(△)	3	△55
特別利益		
貸倒引当金戻入額	0	—
債務保証損失引当金戻入額	—	28
前期損益修正益	—	26
その他	0	3
特別利益合計	0	58
特別損失		
固定資産除却損	2	—
前期損益修正損	1	0
貸倒引当金繰入額	—	44
訴訟関連費用	—	25
その他	0	8
特別損失合計	4	78
税金等調整前四半期純損失(△)	△0	△75
法人税、住民税及び事業税	10	35
法人税等調整額	13	△22
法人税等合計	23	13
少数株主利益	0	0
四半期純損失(△)	△24	△89

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△0	△75
減価償却費	133	126
のれん償却額	72	72
受取利息及び受取配当金	△14	△10
支払利息	31	35
債務保証損失引当金の増減額(△は減少)	—	△28
売上債権の増減額(△は増加)	△92	229
たな卸資産の増減額(△は増加)	△215	△20
仕入債務の増減額(△は減少)	166	43
賞与引当金の増減額(△は減少)	82	89
営業貸付金の増減額(△は増加)	△163	—
前受金の増減額(△は減少)	—	△225
その他	△560	△282
小計	△560	△47
利息及び配当金の受取額	12	10
利息の支払額	△32	△38
法人税等の支払額	△27	△52
営業活動によるキャッシュ・フロー	△608	△127
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△39	△3
無形固定資産の取得による支出	△23	△16
貸付けによる支出	—	△40
貸付金の回収による収入	299	27
その他	3	△33
投資活動によるキャッシュ・フロー	240	△66
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△213	△208
長期借入れによる収入	—	35
長期借入金の返済による支出	△33	△62
配当金の支払額	△65	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△311	△235
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△680	△429
現金及び現金同等物の期首残高	2,254	1,519
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,574	1,090

## (4) 継続企業の前提に関する注記

当第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報

## 【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）

	SMO事業 (百万円)	メディカル サポート事 業 (百万円)	人材コンサル ティング 事業 (百万円)	医薬品等の 販売事業 (百万円)	医薬品等の 製造販売事 業 (百万円)	その他の事 業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
(1)外部顧客に対する 売上高	808	374	102	992	1,045	192	3,515	—	3,515
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	0	16	26	0	1	1	46	(46)	—
計	808	390	128	992	1,047	193	3,562	(46)	3,515
営業利益又は営業損 失(△)	166	64	16	△8	△39	10	210	(218)	△8

(注) 当第1四半期連結累計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準9号 平成18年7月5日)を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、営業利益が11百万円減少しております。

当第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

	SMO事業 (百万円)	メディカル サポート事 業 (百万円)	人材コンサル ティング 事業 (百万円)	医薬品等の 販売事業 (百万円)	医薬品等の 製造販売事 業 (百万円)	その他の事 業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
(1)外部顧客に対する 売上高	800	151	61	1,025	1,233	207	3,480	—	3,480
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	0	4	19	0	1	20	46	(46)	—
計	801	156	80	1,026	1,234	227	3,526	(46)	3,480
営業利益又は営業損 失(△)	149	△30	△1	38	3	△9	150	(207)	△56

(注) 1 当第1四半期連結累計期間より、当社の連結子会社である、株式会社アイロムロハス及び株式会社ウイング湘南において有形固定資産の減価償却方法を従来の定率法から定額法へ変更しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、医薬品等の販売事業における営業利益が2百万円増加しております。

2 当社の連結子会社である、株式会社アイロムメディックにおいて貸付金事業免許を平成21年4月に返納いたしました。これにより、当第1四半期連結累計期間におけるメディカルサポート事業の売上高が3百万円減少し、営業損失が2百万円減少しております。

## (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

該当事項はありません。